連続講座
第1期

陽楽の森「講座編」

# 陽楽の森から考える
## 新常態 ニューノーマル の輪郭

ニュータウン開発された都市のなかに取り残された「陽楽の森」から、「新常態」と呼ばれるこれからの時代の「森と社会」の関係を考える。そのとき、どのくらいの広がりや奥行きをもって「考える」ことの輪郭を描くことができるだろうか。というのも「新常態」においては、20 世紀後半の高度経済成長期やバブル期に謳歌されたような経済的繁栄とは違って、「植物の生長に依拠した社会発展」があってこそ営まれる「暮らしの充実」が求められるからである。

「陽楽の森・連続講座・第1期」では、その「輪郭」を、林業政策、林学、生態学、さらに土中環境、菌、建築、そして政治思想、哲学という多様な領域にわたって、森のいわば「目に見える相貌」から「目に見えない相貌」までをとりあげ、全 9 回をつうじて浮き彫りにする。

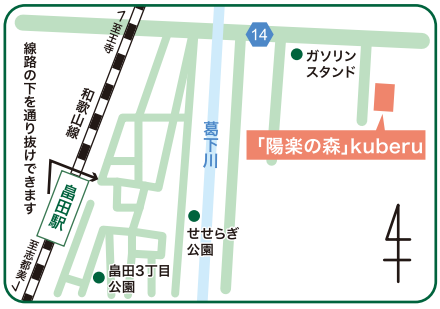
**期間**
2022年6月～2023年2月
原則として 第3土曜 全9回
※ 講師のご都合により、日程を変更する場合があります

**定員**
40名（会場の場合）

**時間**
15:00-17:30
第1回は13:30-16:00
イントロ10分/講演90分/休憩10分/質疑応答40分

**参加費**
会場参加・オンライン参加ともに
500円

**場所**
「陽楽の森」kuberu2階
奈良県王寺町畠田2丁目88




**アクセス**
JR畠田駅、奈良交通バス停畠田から
徒歩10分　駐車場あり

**online**
ライブ配信があります。
視聴は事前申込が必要です。

詳細・お申込み方法は裏面へ

# 講座内容

**第1回**
## 21世紀はどのような時代にしなければならないのか
**文明史的観点から考える**

6.18 土
13:30-16:00

泉　英二　林業政策、森林・林業史／(一社)大和森林管理協会代表理事、愛媛大学名誉教授、国民森林会議政策提言委員長

**第2回**
## 林業と技術
**成長を目指すのか持続を目指すのか？**

7.16 土

大住 克博　林学／(一社)大和森林管理協会顧問、元森林総合研究所主任研究員

**第3回**
## 生物多様性と文化多様性
**環境史の視点から**

8.20 土

湯本 貴和　生態学／京都大学名誉教授、元京都大学霊長類研究所長、前日本生態学会長

**第4回**
## 小さな自然再生のすすめ
**OECMと手づくり環境自治**

9.17 土

三橋 弘宗　河川生態学／兵庫県立人と自然の博物館主任研究員

**第5回**
## 土中環境
**森を支える生命循環**

10.15 土

高田 宏臣　環境・土木研究／(特非)地球守代表理事、(株)高田造園設計事務所代表取締役

**第6回**
## 菌の声を聴く
**タルマーリーの動的なモノづくり**

11.19 土

渡邉　格　タルマーリ(野生の菌で醸すパン・地ビール&カフェ)オーナーシェフ

**第7回**
## 自然との関係を通して現代社会を捉え直す
**未来社会のデザイン**

12.17 土

内山　節　哲学者

**第8回**
## 生きているものから建築をみる
**設計主義を超えて**

1.21 土

伊藤 立平　建築家／伊藤立平建築事務所

**第9回**
## 撤退学との対話
**もう一軸を立てるために**

2.18 土

堀田 新五郎
政治思想史／奈良県立大学地域創造学部教授、地域創造研究センター長

谷　茂則
チーム「めだか」代表、(一社)大和森林管理協会理事、(株)谷林業代表取締役、(特非)奈良ストップ温暖化の会副理事長、(一社) 地域未来エネルギー奈良理事、(一社)文化遺産を未来につなぐ森づくり会議理事

**コーディネーター**

家中　茂　環境社会学・村落社会学／(一社)大和森林管理協会顧問、鳥取大学地域学部特任教授

## 申込方法

**お申し込みは、各回ごとに申し込みフォームからどうぞ**

- ●オンライン参加の方には、WEB 開設後、参加費のお支払い方法をお知らせします。
- ●会場参加の方も、なるべく事前にご予約ください。なお、参加費は当日受付にてお支払いください。

**2022.5.20 WEBサイト開設予定**

主催　チーム「めだか」・(一社) 大和森林管理協会　URL https://www.yamato-kyo.net

本講座は、トヨタ財団2021年度国内助成プログラム「新常態における新たな着想に基づく自治型社会の推進／2) 地域社会を支える共創によるプラットフォームの創出や整備」の「都市に取り残された森の多世代・多分野共創によるプラットフォームとしての再構築」(チーム「めだか」／代表：谷茂則) の一環です。 URL https://www.toyotafound.or.jp/community/2021/

(一社) 大和森林管理協会は、環境省「生物多様性のための30by30アライアンス」参加団体です。

共催　奈良県立大学 地域創造研究センター　URL https://narapu-rcrc.jp

協力　奈良女子大学　大和・紀伊半島学研究所 なら学研究センター　URL http://www.nara-wu.ac.jp/yki/

奈良県 フォレスターアカデミー　URL https://nfa.ac.jp/

オフィスエルインク さとびごころ編集部　URL https://satobigokoro.org

問合せ先　s.yanaka@yamatokyo.com　090-3191-0452(家中)

# 講座内容

コーディネーター　**家中茂氏**

家中茂氏は環境社会学・村落社会学が専門である。生活の立場から人と自然のかかわりについて考察する「生活環境主義」にもとづき、沖縄のサンゴ礁、町並み景観、中山間地域の森林・林業など「コモンズ」に関するフィールドワークを続けている。砂田明水俣一人芝居『海よ母よ子どもらよ / 現代夢幻能「天の魚」』（原作石牟礼道子、1980 年紀伊國屋演劇賞特別賞）に舞台監督として同行、その後、沖縄・食と工芸「真南風」設立に参画。

家中　茂（環境社会学・村落社会学 / 鳥取大学地域学部特任教授）東京都出身。関西学院大学社会学研究科博士課程後期課程単位取得退学。博士（文学）。沖縄大学地域研究所、鳥取大学地域学部を経て現職。『アートがひらく地域のこれからークリエイティビティを生かす社会へ』（共編著・ミネルヴァ書房・2020）、『新版 地域政策入門ー地域創造の時代に』（共編著・ミネルヴァ書房・2019）、『里海学のすすめー人と海との新たな関わりを紡ぐ』（分担執筆・勉誠出版・2018）、『地域環境学ートランスディシプリナリー・サイエンスへの挑戦』（分担執筆・東京大学出版会・2018）、『日本のコモンズ思想』（分担執筆・岩波書店・2014）、『林業新時代ー「自伐」がひらく農林家の未来』（共編著・農山漁村文化協会・2014）、『地域学入門ー〈つながり〉をとりもどす』（共編著・ミネルヴァ書房・2011）、『景観形成と地域コミュニティー地域資本を増やす景観政策』（共著・農山漁村文化協会・2009）
「現代農山漁村における『生産のある生活空間』に関する環境社会学の新たな分析枠組構築」（科学研究費基盤研究(B)／2020～2023年度／代表）
「生業生活多世代共創コミュニティモデルの開発」（JST-RISTEX「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域／2016～2019年度／代表）https://www.jst.go.jp/ristex/i-gene/projects/h28/project_h28_5.html

## 泉 英二氏

### 第１回｜2022.6.18（土）13:30-16:00
### 「21 世紀はどのような時代にしなければならないのか ── 文明史的観点から考える」

泉英二氏は林業政策・林業史が専門である。吉野林業の歴史的展開について実証的な研究をしてこられた。国民会議提言委員会委員長として、林野庁の林業政策を批判的に論評し、日本の林業政策の根本的な改革に取り組んでいる。2017年（一社）大和森林管理協会を谷茂則氏と設立し、代表理事を務める。泉氏は、現在の社会状況を近代最末期と捉え、その先に、化石燃料に依存せず、地球上の生物のなかで生産者に位置する植物の生長の範囲での社会発展を目指すべきであるという論を展開されている。本プロジェクトは、この「植物の生長に依拠した社会発展もしくは文明」の具体的な姿を模索し探求しているといってよい。連続講座のオープニング第１回は、泉氏の講演から始めたいと思います。

泉　英二（林業政策・林業史／大和森林管理協会代表理事、愛媛大学名誉教授、国民森林会議政策提言委員長）島根県出身。京都大学農学研究科修了。農学博士。愛媛大学農学部を経て現職。
「『森林経営管理法』を危惧する」『季刊地域』（35 号・2018）、「吉野林業の展開過程」（『愛媛大学農学部紀要』36（2）・1992）
国民森林会議　https://peoples-forest.jp
大和森林管理協会　https://www.yamato-kyo.net

**第１回のポイント：**
連続講座の開始にあたり、冒頭で、趣旨説明とともに「陽楽の森」プロジェクトが目指していることについて紹介します（家中茂・谷茂則）。第１回では、プロジェクトの基本的な考え方となる「植物の生長に依拠した社会発展もしくは文明」について泉氏に語っていただきます。それは現在の林業政策を問うと同時に、現代文明批判という性格をもつといえます。そこから、本プロジェクトが基調に文化運動の性質をもっていることも理解されるでしょう。

## 大住克博 氏

### 第２回｜2022.7.16（土）
### 「林業と技術 ── 成長を目指すのか持続を目指すのか？」

大住克博氏は、林学・森林生態学が専門である。林業政策や林業技術の抱える矛盾を育成林業の歴史や林業技術の脆弱性から考察している。日本の林業政策についても国際的動向に照らして問題点を指摘している。また、大住氏は次のように問う。現代において人々のなかに潜在的にみとめられる「森」に対する期待やニーズ（たとえば「チャイムの鳴る森」への反響の大きさを考えるとよい）と、現行の林業政策のあいだに存在するギャップに対して、森林・林業の研究は関心をまったく払っていないが、しかし、そのギャップを埋めていくことにこそ、ほんらいの学問的営為があるのではないかと。そして、「林学」は森林「科学」には収まらず、歴史な視点にもとづく総合的な学問であるべきだと論じる。第２回では、このような問題関心を共有します。

大住克博（林学・森林生態学／大和森林管理協会顧問、鳥取大学名誉教授、元森林総合研究所、森林施業研究会元代表、大阪市立自然史博物館外来研究員）愛知県出身。京都大学農学部卒業。森林総合研究所、鳥取大学農学部を経て現職。
『里と林の環境史（シリーズ日本列島の三万五千年ー人と自然の環境史 )』（共編著・文一総合出版・2011）、『森の生態史ー北上山地の景観とその成り立ち』（共編著・古今書院・2005）。「北上山地の広葉樹林の成立における人為攪乱の役割に関する研究」にて日本森林学会賞受賞（2007）。

**第２回のポイント：**
大住氏から、人と自然（森林）との相互作用の一つとして位置づけられる「林業」について、それが基本的に抱えてきた問題点を、とくに技術という人と自然の直接的な媒介・接点に注目した考察をお話いただきます。また、森林・林業にかかわる研究がほんらいどのような課題を見つけて追求するべきなのか、林業政策の社会的責任という視点からも考えます。なお、大住氏は、第３回で言及される総合地球環境研究所「環境史」プロジェクトにも参画しておられます。

## 湯本貴和 氏

### 第３回｜2022.8.20（土）
### 「生物多様性と文化多様性 ── 環境史の視点から」

湯本貴和氏は、屋久島をフィールドに樹木とその繁殖を助ける動物（ハチ・ハエ、トリ・サルなど）の関係について初めて学術的にとりあげ新たな学問領域をひらいた。その後、アフリカ、南米、アジアの熱帯雨林で植物と動物の相互関係に関する研究を進め、総合地球環境学研究所・環境史プロジェクト「日本列島における人間―自然相互関係の歴史的・文化的検討」において、日本列島のさまざまな自然の成り立ちと「ワイズユース（賢明な利用）」について、多分野融合の共同研究を推進した。第３回では、「生物多様性」及び「生物文化多様性」について、また「環境史」や「ワイズユース（賢明な利用）」の考え方について学びます。

湯本貴和（生態学／京都大学名誉教授、元京都大学霊長類研究所長、前日本生態学会長、元「野生生物と社会」学会長）徳島県出身。1987 年京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了。理学博士。神戸大学、京都大学生態学研究センター、総合地球環境学研究所、京都大学霊長類研究所を経て現職。
『はじめて学ぶ生物文化多様性』（共編著・講談社・2020）、『ユネスコエコパークー地域の実践が育てる自然保護』（共編著・京都大学学術出版会・2019）、『日本列島の三万五千年ー人と自然の環境史（全 6 巻）』（編著・文一総合出版・2011）、『世界遺産をシカが喰うーシカと森の生態学』（共編著・文一総合出版・2006）、『熱帯雨林』（岩波書店・1999）、『屋久島 - 巨木と水の森の生態学』（講談社・1995）

**第３回のポイント：**
持続的社会の形成において「生物多様性」は重要なコンセプトです（第４回参照）。そこで「生物多様性」についての理解を深めるとともに、「生物文化多様性」という新たなコンセプトにまで視野をひろめたいと思います。湯本氏が普及・推進されてきた「ユネスコエコパーク」は、「世界遺産」が「手つかずの自然・原生自然」を尊重する傾向があるのに対して、「ワイズユース（賢明な利用）」をつうじて、里山に代表される「人の手が加わった自然・2次的自然」の生物多様性を重視し、環境政策の世界的な潮流の一つとなっています。「生物文化多様性」は、日本文化の自然とのかかわりの深さに目をひらかせてくれます。

## 三橋弘宗 氏

### 第４回｜022.9.17（土）
### 「小さな自然再生のすすめ ── OECM と手づくり環境自治」

三橋弘宗氏は、河川生態学が専門である。近代的な土木工事によってかつての姿を改変されてしまった水辺であっても、少し手を加えて、生物にとって良好な環境をつくりだすことができれば、思いのほか生物たちは応えてくれる。大きな予算をつかわずとも、小さな自然再生の積み重ねが大きな効果を発揮する。必ずしも自然保護を目的とした政策や公共事業によらずとも、生物多様性を結果として豊かにする人々の日常的な活動に注目すると、そこには創意工夫に満ちた小さな技術がうまれている。「OECM（もう一つの保全地区）」も、そのような発想にもとづいた環境自治の取り組みとして位置づけることができる。第４回では、本プロジェクトが「陽楽の森」で展開するのも「小さな自然再生」であり、かつ「コミュニティ再生」であることを学びます。

三橋弘宗（河川生態学／兵庫県立人と自然の博物館主任研究員）京都府出身。京都大学大学院理学研究科博士前期課程修了。理学修士。日本生態学会、応用生態工学会、日本陸水学会、アメリカベントス学会、日本展示学会、国際保全生物学会等所属。
企画展「日本文化を育んだ自然ーJAPAN COLOR」（野口家住宅花洛庵・2018）、『保全生態学の技法ー調査・研究・実践マニュアル』（共著・東京大学出版会・2010）☒兵庫県秋人と自然の博物館　https://www.hitohaku.jp/infomation/event/legacy-kyoto2019.html

**第４回のポイント：**
第４回で紹介される各地の事例をつうじて、「陽楽の森」プロジェクトが「小さな自然再生」の取り組みであることに気づくでしょう。それは、コミュニティ再生の取り組みでもあり、中山間地域の過疎地においても、ニュータウン開発された地域においても求められます。また、環境省が新たに取り組む「自然共生エリア /OECM」事業とも関連が深いことも理解されるでしょう。「植物の成長に依拠した社会発展もしくは文明」において、生物多様性にもとづく生物資源の持続的利用は不可欠な基盤となります。

## 高田宏臣 氏

### 第５回｜2022.10.15（土）
### 「土中環境 ── 森を支える生命循環」

高田宏臣氏は、造園設計施工と環境・土木研究が専門である。東日本大震災をきっかけに、これまで積み重ねてきた文明のあり方を見直す必要があると考えるようになり、本業の造園設計施工から自然環境の再生とその技法や視点の普及に軸足を移していった。かつての環境造作には、現代では想像の及ばぬほどの深い意味が込められており、土地の生態系を養い自然環境の潜在力を高める暮らし方を持続させてきたのである（「地球守」HP より）。第５回では、土地のもっているポテンシャルを見ること、それには土地を読む技術が大切であることを、高田氏の実践から学びます。

高田宏臣（環境・土木研究／（特非）地球守代表理事、(株）高田造園設計事務所代表取締役）千葉県出身。東京農工大学農学部林学科卒業。2007 年株式会社高田造園設計事務所設立。2016 年 NPO 法人地球守代表理事。
『新版これからの雑木の庭』（主婦の友社・2021）、『土中環境ー忘れられた共生のまなざし、蘇る古の技』（建築資料研究社・2020）
地球守　https://chikyumori.org
高田造園設計事務所　http://www.takadazouen.com

**第５回のポイント：**
これまで森林の問題を考えるとき、一般には、目に映る地上部分のことしか見ておらず、土中の水や空気の循環をつうじて、地上の相貌が維持されていることの大切さに気づいてはいませんでした。学術的には分野ごとに個別の発見はありますが、それを統合するには技術の視点が不可欠といえます。残念ながら現代の土木技術はその視点を欠落させており、地上の改変がそのまま、土中環境を閉塞させ、ひるがえって地上の相貌の崩壊をもたらしているのです。森を甦らせるためには、また災害を防ぐためには、何をどのように見なくてはいけないのか、高田氏の実践から学ぶことは大きいといえます。

## 渡邉 格 氏

### 第６回｜2022.11.19（土）
### 「菌の声を聴く ── タルマーリーの動的なモノづくり」

渡邉格氏は、鳥取県智頭町で、野生の菌でパンとビールをつくっている。パンのもととなる酒種の麹菌による発酵は、かつては日本各地の酒蔵で見られたが、いまでは 2～3 軒しか残っていない。それは技術が廃れたのではなく、菌が繁殖する環境が失われたからである。たとえば、自動車の交通量が多いとか、農薬散布があると、麹菌がとれずに他の菌が繁殖してしまう。野生の菌は工業化された純粋培養の菌と違って暴れるので扱うのは大変だが、それだけに生命力を引き出すことによる滋味がある。小麦粉も自然農法によって栽培された小麦を自分で製粉して使っている。かつて日本の村々では収穫した小麦を挽いて使っていたが、いまでは大手の製粉会社の独占となり、粗い小麦粉が手に入らない。味覚さえも工業化に慣らされてしまっているのである。第６回では、パンクロックのようにとんがって個性あるパンやビールをつうじて、食べることの意識を変えること、それは食にとどまらず、文化や生きることへとつながるという問題提起を受けとめます。

渡邉　格（タルマーリー・オーナーシェフ）東京都出身。千葉大学園芸学部卒業。2008 年千葉県いすみ市にてタルマーリー開業。真庭市勝山を経て、2015 年鳥取県智頭町に移転し「野生の菌で醸すパン・地ビール&カフェ」タルマーリー開業。
『菌の声を聴けータルマーリーのクレイジーで豊かな実践と提案』（渡邉麻里子と共著・ミシマ社・2021）、『田舎のパン屋が見つけた「腐る経済」』（講談社・2013）
タルマーリー　https://www.talmary.com
LONG LIFE DESIGN 2 祈りのデザイン展ー47 都道府県の民藝的な現代デザインー
https://www.d-department.com/item/DD_EVENT_24263.html
（鳥取県からは「動的ものづくり」を唱えるタルマーリーが紹介されている）

**第６回のポイント：**
第５回に引き続き、「目にみえてない世界」への視点をさらに深めていきます。「植物の生長に依拠した社会発展もしくは文明」を構想するとき、植物の生長を支える「菌の世界」について知ることは、「土中環境」とともに必須です。近年は「発酵」や「分解」への関心も高まってきています。それと同時に「食」をつうじて、どのような出会いがうまれるか。そこには「菌」が醸し出す社会関係への信頼がよこたわっているように思われ、文化運動の様相を帯びてくると捉えられます。「陽楽の森」がそのような拠点となることを目指したいと思います。

## 内山 節 氏

### 第７回｜2022.12.17（土）
### 「自然との関係を通して現代社会を捉え直す ── 未来社会のデザイン」

内山節氏は、自然や労働をめぐって思索を深めておられる。そして、私たちの社会は、生者と死者と自然とで成り立っていると論じる。すなわち、私たちは、人間どうしの関係を通して、また死者との関係を通して、そして自然との関係を通して、この社会をつくっているのである。それは、近代の科学が追求してきたように、この世界を構成する何か実体が存在するというのではなく、関係が先にあって、そこから世界が立ち現れてくるという考え方である。明治期以降、私たちの社会は、このような近代的な考え方や制度によって本来のあり方をずいぶんと失ってきた。しかしながら、いま近代が行き詰まり、伝統回帰が起こりつつあるというのである。第７回では、内山氏の問題提起を受けとめ、未来社会のデザインについて考えたいと思います。

内山　節（哲学者／（特非）森づくりフォーラム代表理事、（一社）文化遺産を未来につなぐ森づくり会議代表理事）東京都出身。1970 年代より東京と群馬県上野村の二拠点生活。元立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授。
『内山節と語る未来社会のデザイン（全３巻）』（農山漁村文化協会・2021）。『修験道という生き方』（共著・新潮社・2019）、『内山節著作集（全 15 巻）』（農山漁村文化協会・2015）、『いのちの場所』（岩波書店・2015）、『新・幸福論ー「近現代」の次に来るもの』（新潮社・2013）、『文明の災禍』（新潮社・2011）、『共同体の基礎理論』（農山漁村文化協会・2010）、『清浄なる精神』（信濃毎日新聞社・2009）、『怯えの時代』（新潮社・2009）、『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』（講談社・2007）、『「里」という思想』（新潮社・2005）　著書多数　http://www.uthp.net

**第７回のポイント：**
第１回「21 世紀はどのような時代にしなければならないのか」を受け、そして最終回「撤退学との対話ー もう一軸を立てるために」へと展開するうえで、近代がどういう社会であるのか、何が近代を成立させてきたのか、それに対して、私たちにとって「自然」はどのように経験されているのか、これからの「陽楽の森」の活動を構想するうえで考えておきたいと思います。

## 伊藤立平 氏

### 第８回｜2023.1.21（土）
### 「生きているものから建築をみる ── 設計主義を超えて」

伊藤立平氏は、建築設計が専門である。日建設計を経て、伊藤立平建築設計事務所を設立し、湘南・鎌倉と大阪・関西の２拠点で活動を展開している。個人施主の建築から公共施設まで木を活かした建築設計に取り組んでいる。建築という行為が社会や人々の暮らしに何をもたらそうとするのか、建築の思想は時代に応じて変化してきている。そのなかで、伊藤氏は、生きているものを対象とする、つまり固定化されずに揺れ動き、時とともに変化していく関係のなかで成立する建築を指向している。本プロジェクトでも陽楽の森「哲学カフェ編」をつうじて、このような問題関心を共有してきた。第 8 回では、建築の思想史から「陽楽の森」をとらえる視点について共有します。

伊藤立平（建築家／伊藤立平建築事務所）神奈川県出身。東京工業大学大学院総合理工学研究科人間環境システム修了。(株) 日建設計を経て、2011 年伊藤立平建築設計事務所設立。移住交流体験施設「下北山むらんち」2020 年、コミュニティ拠点「二本松の農園交流所」2019 年、木育拠点「長門おもちゃ美術館」2018 年（キッズデザイン賞、ウッドデザイン賞、木の建築賞、木材活用コンクール日本木材青壮年団体連合会会長）、木材ギャラリー「木の風景」2016 年（JIA 中国建築大賞特別賞）、「浅川商店平群駅前計画」2016 年、「磯山調剤薬局」2010 年（JCD Design Award 銀賞）
伊藤立平建築事務所　https://www.tappeiito.com

**第８回のポイント：**
これまでの連続講座をつうじて、人と自然（森）とのかかわりを捉えることの幅の広さに気づかされてきました。伊藤氏は、「陽楽の森」に「木のしつらえ」を建築設計することを任されています。そこで、第８回では、これまでの連続講座でとりあげた話題をふまえつつ、建築設計という行為が今後の社会でどこへ向かおうとしているのか、そこから「陽楽の森」に建築物ができることの意味について考えたいと思います。

## 堀田新五郎 氏・谷茂則 氏

### 第９回 /2023.2.18（土）
### 「撤退学との対話 ── もう一軸を立てるために」

堀田新五郎氏は、政治思想史が専門である。新たな地域創造に向けて、県立大学という社会的役割をもふまえて、「撤退学宣言」を著した。すなわち、急激な人口減少、地方消滅、未曾有の財政赤字、年金崩壊、環境激変という状況を前にして、これまでの価値観や生のスタイルを根本的に改めない限りは破局的な事態が訪れるに違いない。そのような不安を誰もが抱えているにもかかわらず、「慣性の力学」から逃れられずにいる。戦前・戦中の状況、そして現代の東日本大震災にともなう東京電力原子力発電所事故後の状況、いずれをとっても「撤退」できないことから生ずる構造的破局であり悲劇である。いまこそ求められるのは、近代的な分析知性から撤退的な知性へのターン、知の構造転換である（「撤退学宣言」より）。
この「撤退学宣言」に呼応するものとして、第１回でとりあげた「植物の生長に依拠した社会発展もしくは文明」の構想が位置づけられるだろう。このような問題関心にもとづき、連続講座第１期のエンディング第９回では、「撤退学との対話」をおこないます。本プロジェクトからは、プロジェクト代表の谷茂則氏が応じます。

堀田新五郎（政治思想史／奈良県立大学地域創造学部教授、地域創造研究センター長）東京都出身。京都大学法学部卒業。神戸大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得後退学。『撤退論』（共編著・晶文社・2922）、「撤退学宣言Ⅱ（解決編）ーホモ・サピエンスよ、その名に値するまであと一歩だ」（『地域創造学研究』52 号・2022）、「撤退学宣言Ⅰ（問題編）ーホモ・サピエンスよ、その名に値するまであと一歩だ」（『地域創造学研究』50 号・2021）、「知性と反知性ーソクラテスとサルトルを起点に」（『政治思想研究』2020）、『講義 政治思想と文学』（共編著・ナカニシヤ出版・2017）
地域創造研究センター　https://narapu-rcrc.jp

谷　茂則（チーム「めだか」代表、(一社）大和森林管理協会理事、(株）谷林業代表取締役、(一社）地域未来エネルギー奈良理事、(特非）奈良ストップ温暖化の会理事、(一社）文化遺産を未来につなぐ森づくり会議理事。）奈良県出身。吉野林業・谷家 14 代目。
大和森林管理協会　https://www.yamato-kyo.net

**第９回のポイント：**
最終回では、「撤退学」との対話を通じて「植物の生長に依拠した社会発展もしくは文明」が具体的にどのような構想に結びつくのか、「もう一軸を立てる」というキーワードで語られることについてイメージ豊かに共有していきます。それは「陽楽の森」を会場とした「チャイムの鳴る森」の奥にあること、その先の構想を浮き彫りにしていくことになるでしょう。同時に「撤退学」にとっても、いくつかの可能性の一つとして、手がかりとなるでしょう。

本講座は、トヨタ財団 2021年度国内助成プログラム「新常態における新たな着想に基づく自治型社会の推進／２）地域社会を支える共創によるプラットフォームの創出や整備」の「都市に取り残された森の多世代・多分野共創によるプラットフォームとしての再構築」(チーム「めだか」／代表：谷茂則) の一環です。
https://www.toyotafound.or.jp/community/2021/
(一社）大和森林管理協会は、環境省「生物多様性のための 30by30 アライアンス」参加団体です
https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/

陽楽の森「講座編」

# 陽楽の森から考える

## 新常態 ニューノーマル の輪郭

連続講座 第１期　全９回　　2022.06 ▷ 2023.02

ニュータウン開発された都市のなかに取り残された「陽楽の森」から、「新常態」と呼ばれるこれからの時代の「森と社会」の関係を考える。
20世紀後半の高度経済成長期やバブル期に謳歌されたような経済的繁栄とは違って、「新常態」においては、「植物の生長に依拠した社会発展」があってこそ営まれる「暮らしの充実」が求められる。では、そのとき、どのくらいの広がりや奥行きをもって「考える」ことの輪郭を描くことができるだろうか。
この連続講座・第１期では、その「輪郭」を、林業政策、林学、生態学、さらに土中環境、菌、建築、そして政治思想、哲学という多様な領域にわたって、森のいわば「目に見える相貌」から「目に見えない相貌」までをとりあげ、全９回をつうじて浮き彫りにする。

［日　時］ 2022年 6月 ▶ 2023年 2月
原則として 第3土曜 15:00-17:30
【注】第１回は 13:30-16:00
休憩・質疑応答含みます　日程を変更する場合があります

［場　所］ 「陽楽の森」kuberu 2階
奈良県王寺町畠田２丁目 88
JR畠田駅、奈良交通バス停 畠田から徒歩10分　駐車場あり

［online］ ライブ配信があります　事前申込が必要です

［参加費］ 会場参加（定員 40 名）・オンライン参加ともに　500 円

［申込み］ お申し込みは、各回ごとに申し込みフォームからどうぞ

●オンライン参加の方には、WEB 開設後、参加費のお支払い方法をお知らせします。
●会場参加の方も、なるべく事前にご予約ください。なお、参加費は当日受付にてお支払いください。

2022.5.20 WEBサイト開設予定

主催：チーム「めだか」・(一社）大和森林管理協会
URL https://www.yamato-kyo.net

共催｜奈良県立大学 地域創造研究センター URL https://narapu-rcrc.jp

協力｜奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所 URL http://www.nara-wu.ac.jp/yki/nara/ 学研究センター
奈良県フォレスターアカデミー URL https://nfa.ac.jp
オフィスエルインクさとびごころ編集部 URL https://satobigokoro.org

問合せ先　✉ s.yanaka@yamatokyo.com　☎ 090-3191-0452(家中)

# 講座内容

**第1回**
## 21世紀はどのような時代に
### しなければならないのか　文明史的観点から考える
6.18 土　13:30-16:00
泉　英二　林業政策、森林・林業史／(一社)大和森林管理協会代表理事、愛媛大学名誉教授、国民森林会議政策提言委員長

**第2回**
## 林業と技術
### 成長を目指すのか持続を目指すのか？
7.16 土
大住 克博　林学／(一社)大和森林管理協会顧問、元森林総合研究所主任研究員

**第3回**
## 生物多様性と文化多様性
### 環境史の視点から
8.20 土
湯本 貴和　生態学／京都大学名誉教授、元京都大学霊長類研究所長、前日本生態学会長

**第4回**
## 小さな自然再生のすすめ
### OECMと手づくり環境自治
9.17 土
三橋 弘宗　河川生態学／兵庫県立人と自然の博物館主任研究員

**第5回**
## 土中環境
### 森を支える生命循環
10.15 土
高田 宏臣　環境・土木研究／(特非)地球守代表理事、(株)高田造園設計事務所代表取締役

**第6回**
## 菌の声を聴く
### タルマーリーの動的なモノづくり
11.19 土
渡邉　格　オーナーシェフ／野生の菌で醸すパン・地ビール＆カフェ「タルマーリー」

**第7回**
## 自然との関係を通して現代社会を捉え直す 未来社会のデザイン
12.17 土
内山　節　哲学者

**第8回**
## 生きているものから建築をみる
### 設計主義を超えて
1.21 土
伊藤 立平　建築家／伊藤立平建築事務所

**第9回**
## 撤退学との対話
### もう一軸を立てるために
2.18 土
堀田 新五郎　政治思想史／奈良県立大学地域創造学部教授、地域創造研究センター長
谷　茂則　チーム「めだか」代表、(一社)大和森林管理協会理事、(株) 谷林業代表取締役、(特非) 奈良ストップ温暖化の会副理事長、(一社)地域未来エネルギー奈良理事、(一社)文化遺産を未来につなぐ森づくり会議理事

**コーディネーター**
家中　茂　環境社会学・村落社会学／(一社)大和森林管理協会顧問、鳥取大学地域学部特任教授